

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320048

研究課題名（和文） 視覚芸術とその文学的言説をめぐる総合研究

研究課題名（英文） Comparative Studies on the Relationship between the Visual Arts and Its Critics

研究代表者

今橋 映子（IMAHASHI EIKO）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：20250996

研究代表者の専門分野： 人文学

科研費の分科・細目： 文学 / 各国文学・文学論

キーワード： 比較文学、比較芸術

1. 研究計画の概要

本研究は「視覚芸術をことばで語る」という営為にとりわけ注目して、その意味と機能を組織的に分析することを目的とする。計4年間の研究期間を2期に分け、前半では「20世紀フォトジャーナリズムにおけることばの機能」、後半では「近代日本美術批評の成立（岩村透を中心に）」を主な研究課題とする。

2. 研究の進捗状況

前半「20世紀フォトジャーナリズムにおけることばの機能」をテーマとした研究は順調に推移し、一般読者にもその成果を還元することを意識して、あえて新書版で成果をすでに公表した。

今橋映子単著『フォト・リテラシー 報道写真と読む倫理』（中公新書）は、幸い、同書は複数の書評を初め、好評を得た。その後、本研究課題の後半「近代日本美術批評の成立」に関する研究に入り、平成22年度の最終年度にこれから入るところである。同上の研究は、歴大な資料調査と分析を必要とする作業だが、当初の見込み以上の成果が出るのが明らかになり、現在精力的に執筆中である。資料所蔵先の都合などにより、あえて個別論文による公表を控え、単行本によって一挙に成果を公表することを予定している。すでに出版社の企画として公刊されることも決定されている。平成22年（あと残り1年の研究期間）で、原稿用紙1500枚予定の全体を書き上げる予定である。

3. 現在までの達成度

本研究課題に関し、前半課題は100%達成。後半課題は残留年度で100%達成予定である。

4. 今後の研究の推進方策

項目2で報告したように、平成22年度の本課題期間が終了した時点で、2冊目の刊行本のための原稿が完成する方向で、目下、鋭意執筆中である。

5. 代表的な研究成果

〔学会発表〕（計3件）

今橋映子「日本人のパリ写真」（国際シンポジウム「日仏交流の150年」、2008.11.23、於：日仏会館）

今橋映子「展覧会カタログと大学（院）の美術教育」（アートドキュメンテーション学会招待発表、2009.3.20、於：和光大学）

今橋映子「明治大正美術批評の転換期」（ラスキン文庫シンポジウム「ラスキンと明治美術」招待発表、2009.9.26、於：中央大学駿河台記念館）

〔図書〕（計1件）

今橋映子『フォト・リテラシー』（中公新書、2008年5月、総ページ数256p）

6. その他

現在、後半課題分の単行本は書き下ろし中。出版社決定済み。原稿用紙換算1500枚予定。